



資料1

生物多様性ふくおか戦略の 改定について

目 次

- 1 生物多様性ふくおか戦略について
- 2 生物多様性に係る国内外の動向
- 3 本市の状況
- 4 戦略のふりかえり
- 5 改定の方方向性
- 6 スケジュール

1 生物多様性ふくおか戦略について

1.生物多様性ふくおか戦略について



目的

生物多様性基本法に基づく法定計画であり、福岡市における生物多様性のあり方を考え、将来にわたって継続的にその恵みを享受できるよう行動するための基本的方向を定めるもの。

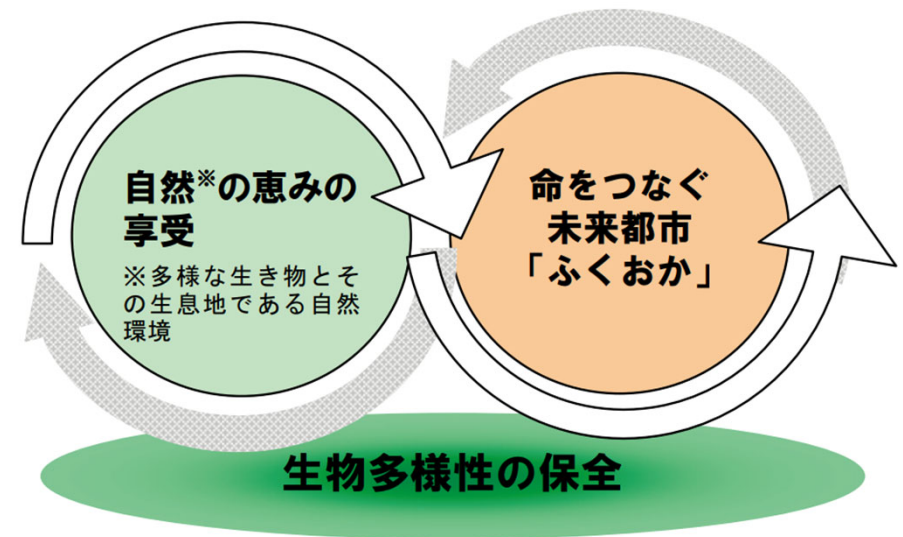
期間

策定時(2012(平成24)年)より 100 年

※自然環境や社会情勢の変化に対応するために、10年程度を目処として見直しを行う。

全体目標

市民が多様な生き物とその生息地である自然環境の保全・再生・育成に取り組み、
百年後も豊かな自然と共生し、
その恵みに支えられ、
命をつなぐ未来都市「ふくおか」



- 生物多様性ふくおか戦略は、第四次生物多様性国家戦略を踏まえて2012(平成24)年に策定したが、策定より13年を経た現在も、生物多様性の重要性の社会への浸透は十分ではない。
- ここ数年で生物多様性をめぐる国内外の大きな動きがあり、第六次生物多様性国家戦略で新たに位置づけられた「ネイチャーポジティブ」や「30 by 30」などの取組みについて、本市においても時機を逸することなく対応する必要がある。



議会や福岡市環境審議会における意見等を踏まえながら
改定作業を進める

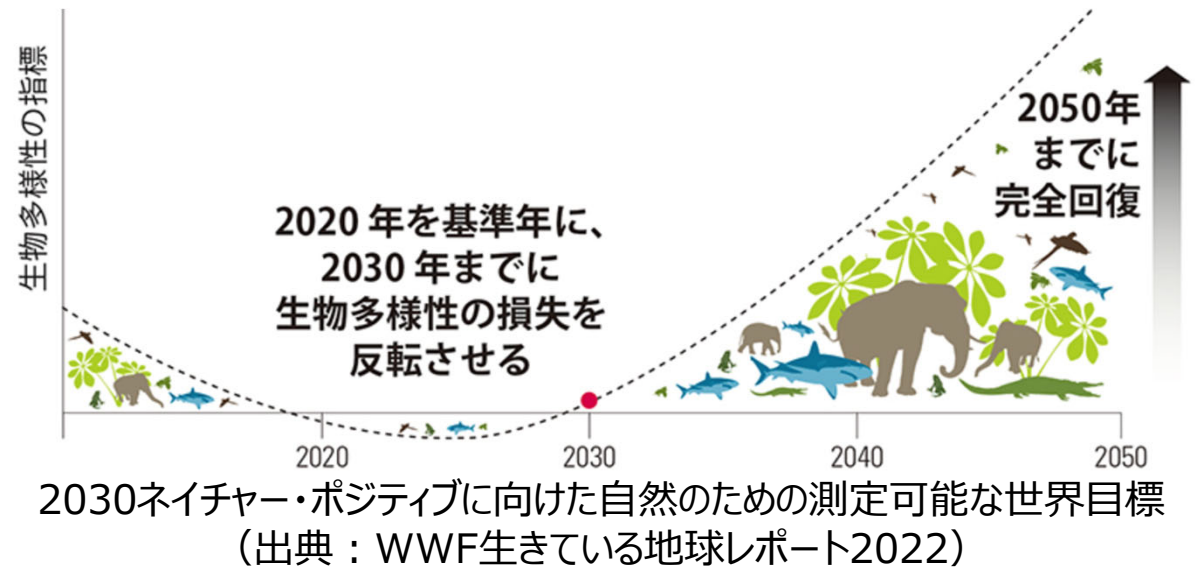
2 生物多様性に係る国内外の動向

昆明・モントリオール生物多様性枠組(2022年採択)

2050ビジョン「自然と共生する社会」

2030ミッション「ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現」

- 自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

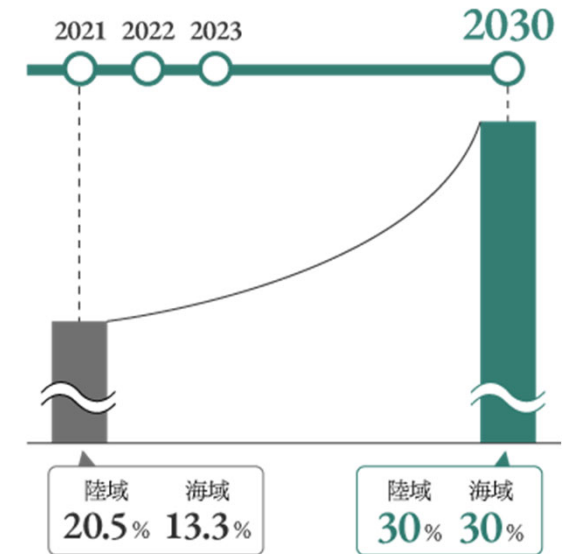


30by30(サーティ・バイ・サーティ)目標

- 2030(令和12)年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全
- OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)の設定・管理を通して達成

生物多様性国家戦略2023-2030（2023(令和5)年3月閣議決定）

- 生物多様性損失と気候危機の「2つの危機」への統合的対応、ネイチャーポジティブ実現に向けた社会の根本的変革を強調
- 目指すべき自然共生社会像（長期目標としての2050ビジョン）と、2050ビジョンの達成に向けた短期目標（2030ミッション）を設定
- 「30by30」目標の達成等の取組により、健全な生態系を確保し、自然の恵みを維持回復



30by30の国の目標
（出典：環境省）

自然共生サイト （日本版OECM）

- 「地域生物多様性増進法」（2025(令和7)年4月施行）に基づき法制化
- 認定総数：全国328か所 合計面積：54.5千ha
（2024（令和6）年度までのOECM登録面積との累計）

- 自然資本を守り活かす社会経済活動（自然や生態系への配慮や評価が組み込まれ、ネイチャーポジティブの駆動力となる取組）の推進



ネイチャーポジティブ経済移行戦略（2024(令和6)年3月策定）

- ネイチャーポジティブの取組は、企業にとって単なるコストアップではなく、自然資本に根ざした経済の新たな成長につながるチャンス
- 自社の価値創造プロセスに自然の保全の概念を重要課題(マテリアリティ)として位置づけるネイチャーポジティブ経営への移行が必要

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)の提言(2023(令和5)年9月)を受け、経済活動による自然環境や生物多様性への影響評価と情報開示を宣言した国内企業は170社に(2025(令和7)年7月時点)。

第六次環境基本計画（2024(令和6)年6月閣議決定）

- 環境保全とそれを通じた『ウェルビーイング／高い生活の質』が最上位の目的として位置づけ
- 早急に経済システムの変革をはかり、環境収容力を守り環境の質を上げることで経済社会が成長・発展できる『循環共生型社会』の構築を目指す

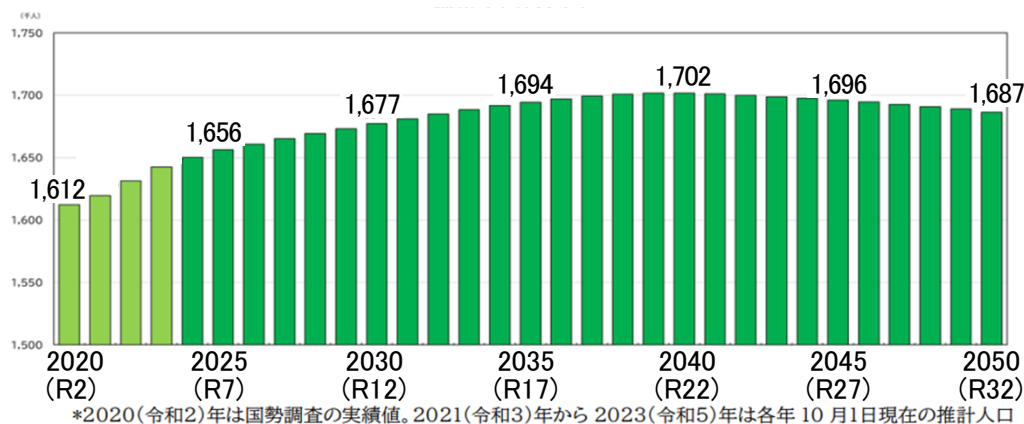
3 本市の状況



人口

人口増加と都心部への集中

- 人口は過去約30年間で一貫して増加。2040(令和22)年にピークを迎え約170万2千人に達すると推計。
- 生産年齢人口は減少し、高齢者人口は増加。世帯当たり人口は減少。
- DID(人口集中地区)は年々拡大、近年は市内西部やアイランドシティ周辺で拡大。

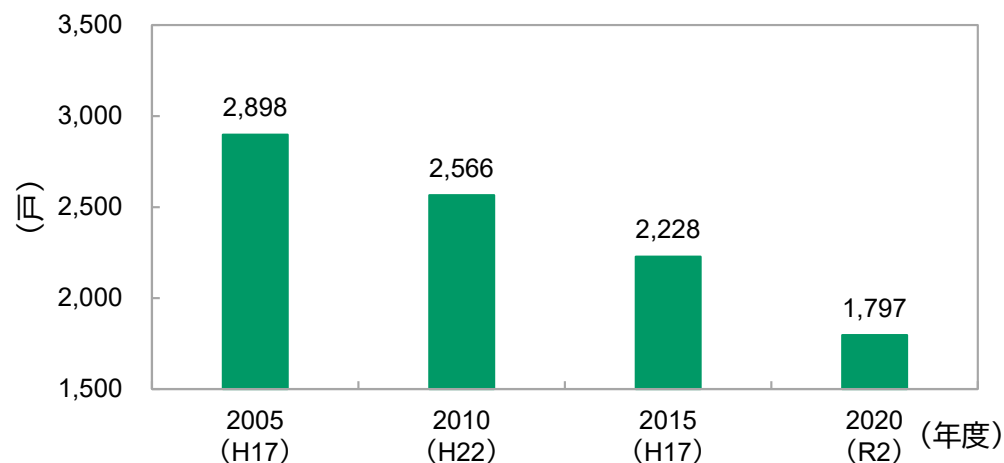


福岡市の将来人口推計 (出典：福岡市)

産業

一次産業従業者の減少

- 2020(令和2)年度の農家戸数は2005(平成17)年度比60%まで減少。
- 農地転用は毎年400～500件程度行われており、住宅への転用が最多。
- 都市化や農業従事者等の高齢化に伴う、市内農家の廃業の増加が推察。

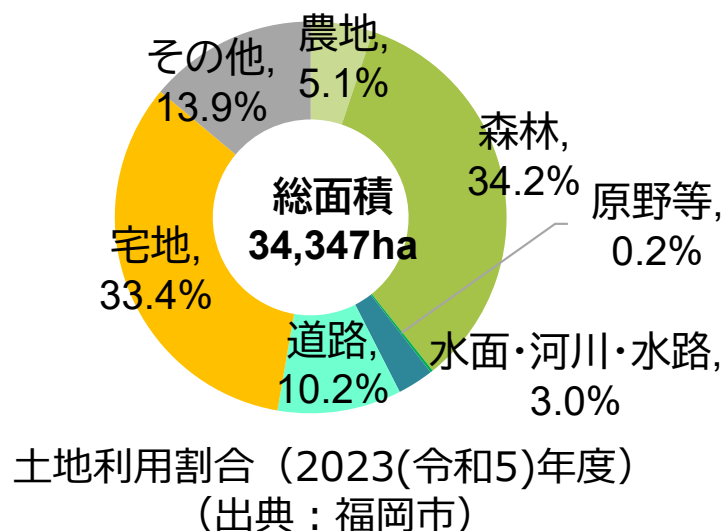


農家戸数の推移 (出典：福岡市)

土地利用

宅地と森林の割合高、都市部は緑が減少

- 土地利用割合は森林と宅地がそれぞれ35%、農地は5%程度。過去5年間で大きな変化なし。



- 市街化調整区域等では緑被率が増加、市街化区域では減少。

市民・企業の意識(市民アンケート結果)

生物多様性への関心、取組意向が低い

市民

- 市民の生物多様性についての関心は、地球温暖化等の他の環境問題よりも低い。
- 市民のボランティア活動参加率が低い(約8割が過去1年に不参加)。

企業

- 民間企業の生物多様性に関する取組・認識が低い。
- 調査対象企業の約半数が生物多様性保全と事業の関連性を重要視しておらず、今後の取組意向も低い。

4 戦略のふりかえり

4 戦略のふりかえり



- 戦略の5つの基本的方向に関連する指標等を設定し、個別に評価した上で、平均点をつけて総合評価を行う。

指標等の設定

主要な 施策ごとの 指標等

主要な施策の進捗状況
をはかる指標等

指標例:

- 市民の意識
- 自然環境の状態
(面積、種数等)
- 取組の状況
(参加者数、実施回数等)

- 指標等は、現行戦略の5つの基本的方向ごとに整理する。

評価方法

個別評価

基準にもとづき、A～Cのランク付け

ランク	基準
A	基準値よりも増加している、または目標値を達成できている
B	基準値からの増減が10%以内
C	基準値よりも減少している、または目標値を達成できていない

総合評価

A～Cで点数付けし、平均点から★をつけて総合評価

平均点	評価(基準)	
2.5以上	順調に進捗している	★★★
1.5以上2.5未満	概ね順調に進捗している	★★
1.5未満	進捗が遅れている	★

A=3点、B=2点、C=1点でそれぞれの合計点、平均点を算出

基本的方向1 生物多様性やその恵みに関する認識の社会への浸透

- 方向① 市民が生物多様性を理解し、その保全の重要性を認識し、行動できるよう生物多様性を広く社会に浸透させます
- 方向② ふくおかの魅力が生物多様性の恵みに支えられていることを理解し、重要性を認識できる人や組織の形成を支援します

指標等

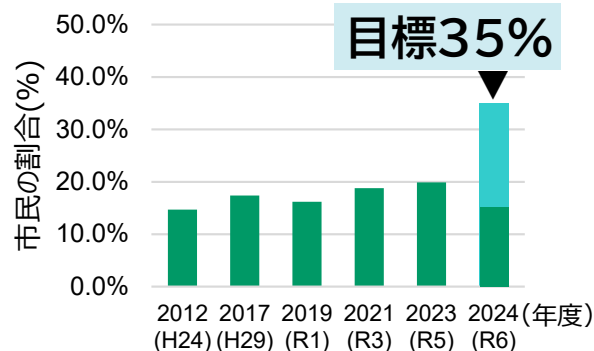
生物多様性を理解し、行動している市民の割合

14.7% ▶ 17.7%

2012年度 (平成24) 2024年度 (令和6)

目標未達
C

目標35%

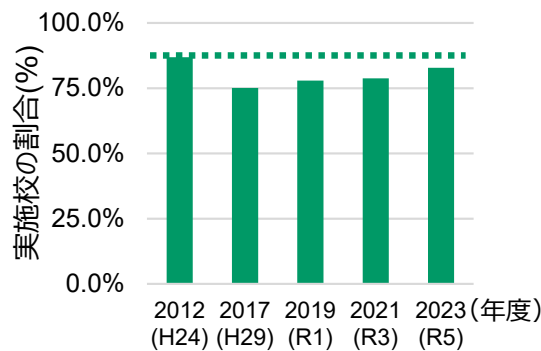


環境関連総合学習の実施校割合

86.9% ▶ 82.8%

2012年度 (平成24) 2023年度 (令和5)

基準年より
ほぼ横ばい
B



「ふくおかレンジャー」受講者数(累計)

10人 ▶ 219人

2015年度 (平成27) 2024年度 (令和6)

基準年より
増加
A

遊びや体験を通して生きものや自然の大切さ、楽しみ方を伝える「ふくおかレンジャー」養成講座を開催。受講生は地域の環境活動の講師等として活躍。



受講風景

地域での活動の様子

基本的方向2 人と自然の環境を改めて考えながら生物多様性の保全

- 方向③ 海洋、島しょ、干潟、平野、丘陵、山地、河川など、ふくおかの多様な生物の生息環境を守るとともに、中心市街地や港湾地域においては、再生・復元を行い、山、川、平野、海のつながりを確保します
- 方向④ 動物、水生生物、植物などふくおかの貴重な生きものを守り、豊かな生物相の回復を目指します

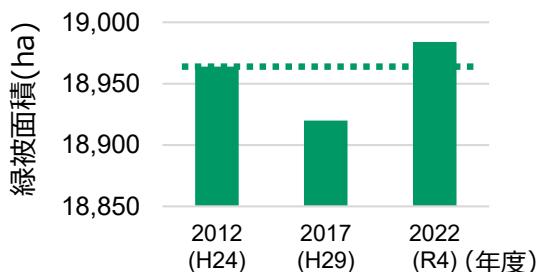
指標等

全市域における
緑被面積

18,964ha ▶ 18,984ha

2012年度
(平成24)

2022年度
(令和4)



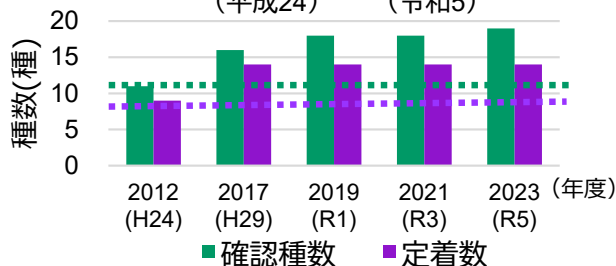
基準年より
ほぼ横ばい
B

特定外来生物の
確認種数と定着種数

確認種数 **11種 ▶ 19種**

定着種数 **9種 ▶ 14種**

2012年度 2023年度
(平成24) (令和5)



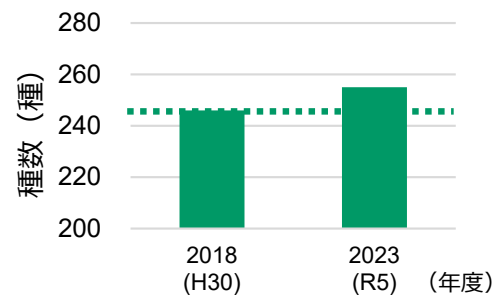
基準年より
増加
C

貴重・希少生物等
の確認種数

246種 ▶ 255種

2018年度
(平成30)

2023年度
(令和5)



基準年より
ほぼ横ばい
B

基本的方向3 生物多様性から享受される恵みの持続可能な利用

方向⑤ ふくおかの地理的特性を活かして生物多様性に配慮したまちづくりを推進します

方向⑥ 安心して暮らせるふくおかの都市基盤をつくります

方向⑦ 生物多様性の恵みを活かしてふくおかの魅力を増進します

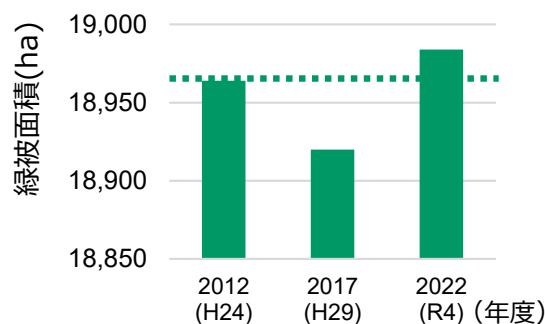
指標等

全市域における
緑被面積【再掲】

18,964ha ▶ 18,984ha

2012年度
(平成24)

2022年度
(令和4)



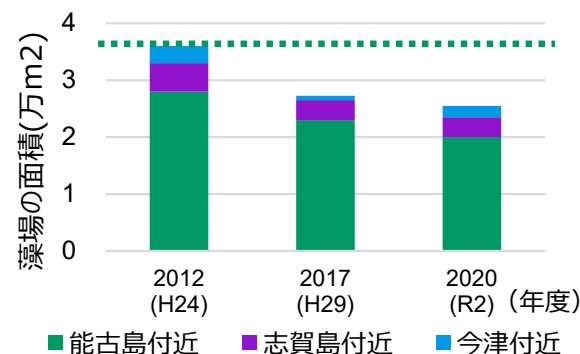
基準年より
ほぼ横ばい
B

藻場面積
(今津・能古島・志賀島)

36,000m² ▶ 25,500m²

2012年度
(平成24)

2020年度
(令和2)



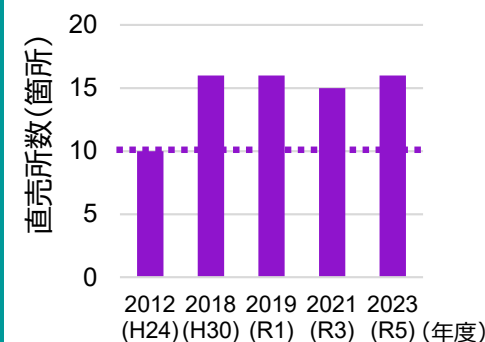
基準年より
減少
C

直売所数

10箇所 ▶ 16箇所

2012年度
(平成24)

2023年度
(令和5)



基準年より
増加
A

基本的方向4 生物多様性に支えられる文化の継承と創造

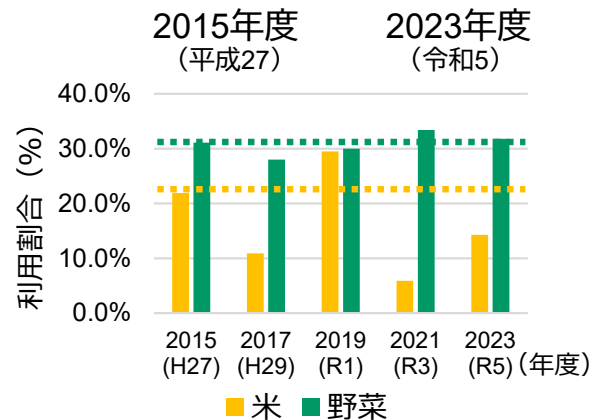
方向⑧ 生物多様性に育まれてきたふくおか固有の文化を継承します

方向⑨ 生物多様性の恵みを活かして新たなふくおかの文化を創造します

指標等

学校給食への市内産
農水産物利用割合

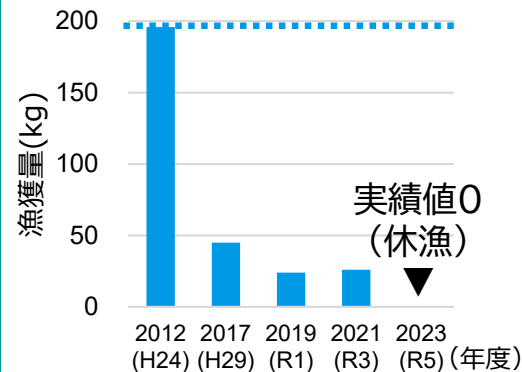
米 : **21.9%** ▶ **14.3%**
野菜 : **31.1%** ▶ **31.8%**



基準年より
減少
C

シロウオの遡上
状況(漁獲量)

196kg ▶ **0kg**【休漁】
2012年度 (平成24) 2023年度 (令和5)



※2021年度は資源保護のため築の統数を半減

基準年より
減少
C

自然の恵み体験活動
参加者数

123人 ▶ **88人**
2019年度 (令和元) 2024年度 (令和6)

森、里、川、海を一つの生態系として捉え、つながりの大切さを体験を通して学ぶ講座を開催。「福岡市水源林ボランティアの会」や福岡市漁業協同組合伊崎支所の協力のもと実施。



開催風景

基準年より
減少
C

基本的方向5 より広域な視野をもちながら地域の生物多様性を支える多様な主体や地域との連携

方向⑩ ふくおかの生物多様性を支える多様な主体、多様な地域との協力関係を構築し、連携した取り組みを推進します

方向⑪ ふくおかの生物多様性を支える多様な主体、多様な地域と連携していくための仕組みやルールを構築します

指標等

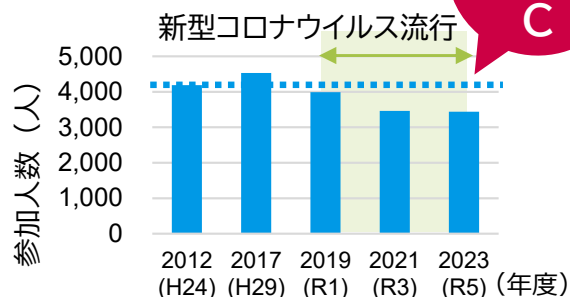
室見川水系一斉清掃への参加人数

4,188人 ▶ 3,442人

2012年度
(平成24)

2023年度
(令和5)

基準年より
減少
C



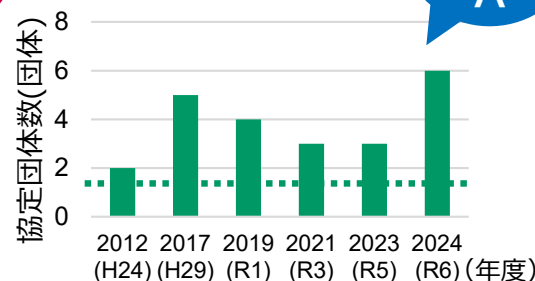
水源の森づくり共働事業協定団体数

2 団体 ▶ 6 団体

2012年度
(平成24)

2024年度
(令和6)

基準年より
増加
A



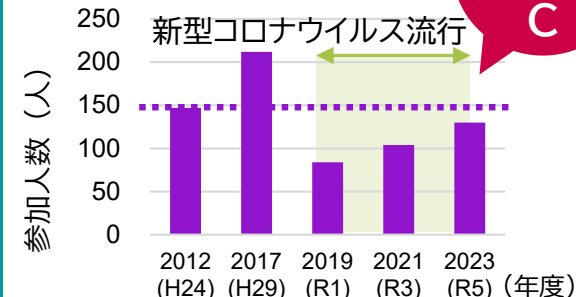
まもる一む等での交流会等イベント参加人数

147人 ▶ 130人

2012年度
(平成24)

2023年度
(令和5)

基準年より
減少
C



生物多様性に係る国内外の動向、市の状況

国内外の動向：2050ビジョン(自然と共生する社会)と2030ミッション(ネイチャーポジティブの実現)、30by30目標、ネイチャーポジティブ経済への移行等

市域の状況：人口増加に伴う都市開発、農業従事者の減少に伴う農地の減少 等

市民・事業者の意向：市民の生物多様性への関心の低さ、生物多様性保全に係る企業の機運不足等

現行戦略のふりかえりと評価

1 生物多様性やその恵みに関する社会への浸透 ★★☆☆ (平均点2.0)

●市民の機運醸成が不足 ●環境教育や体験、機会の提供が不十分

2 人と自然の環境を改めて考えながら生物多様性の保全 ★★☆☆ (平均点1.7)

●多様な生物の生息環境のさらなる保全が必要 ●特定外来生物が定着

3 生物多様性から享受される恵みの持続可能な利用 ★★☆☆ (平均点2.0)

●海域の生態系の保全が不十分 ●地域産物の需要の高まりへの対応が必要

4 生物多様性に支えられる文化の継承と創造 ★★☆☆ (平均点1.0)

●文化を支える生態系サービスが減少 ●自然体験・学習への参加が一部減少

5 より広域的な視野をもちながら地域の生物多様性を支える多様な主体や地域との連携 ★★☆☆ (平均点1.7)

●多様な主体による活動の規模が縮小 ●連携促進のための施策が不十分

次期戦略が担う課題

生物多様性の重要性への認識を高める

生きものの生息・生育環境を保全し回復させる

農村漁村の多面的機能を保全する

実践行動を後押し・促進する

5 改定の方角性

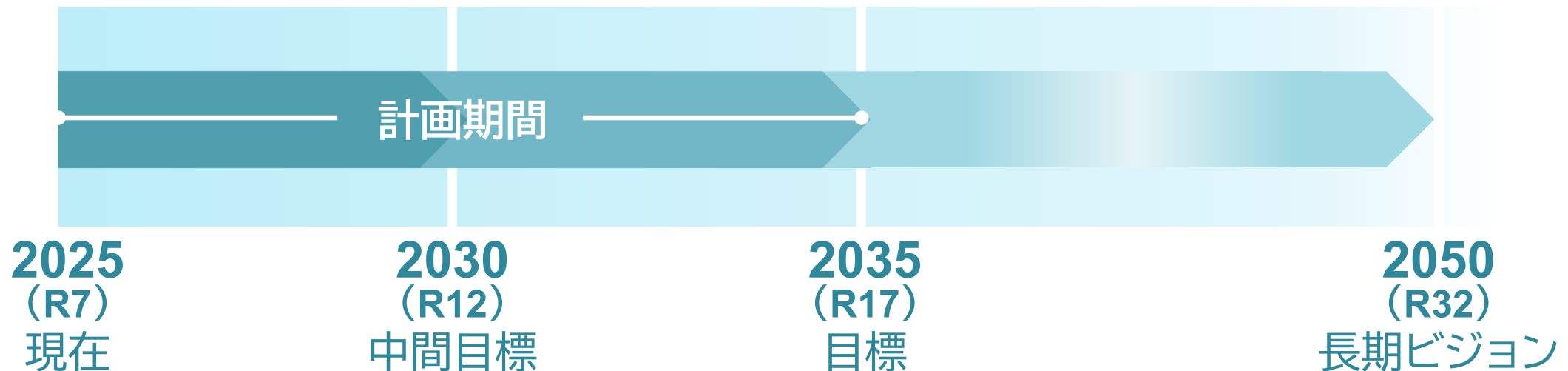


【目標期間の考え方】

- 地球環境と生態系に係る国の目標年である2030(令和12)年、2050(令和32)年及び福岡市環境基本計画の「2050年の理想の環境都市像」を見据えたものとする。
- 100年後の将来像よりも明確な目標を示し、市民の生物多様性への理解向上や保全に向けた行動を促進する。

目標の期間

2030(令和12)年を中間目標、2035(令和17)年を目標とする10年計画とし、2050(令和32)年は長期ビジョンとする



現行戦略のふりかえりと評価

1 生物多様性やその恵みに関する社会への浸透

- 市民の機運醸成が不足
- 環境教育や体験、機会の提供が不十分

2 人と自然の環境を改めて考えながら生物多様性の保全

- 多様な生物の生息環境のさらなる保全が必要
- 特定外来生物が定着

3 生物多様性から享受される恵みの持続可能な利用

- 海域の生態系の保全が不十分
- 地域産物の需要の高まりへの対応が必要

4 生物多様性に支えられる文化の継承と創造

- 文化を支える生態系サービスが減少
- 自然体験・学習への参加が一部減少

5 より広域的な視野をもちながら地域の生物多様性を支える多様な主体や地域との連携

- 多様な主体による活動の規模が縮小
- 連携促進のための施策が不十分

次期戦略が担う課題

生物多様性の
重要性への
認識を高める

生きものの
生息・生育環境
を保全し回復
させる

農村漁村の
多面的機能を
保全する

実践行動を
後押し・促進
する

次期戦略の基本的方向(案)

基本的方向1

生物多様性の保全の
重要性について
「知る・学ぶ」

基本的方向2

福岡市の生物多様性を
「守る・増やす」

基本的方向3

生物多様性の課題解決
に向けて自然環境や多
様な主体を
「活かす・つなぐ」

横断的手法



基本的方向1 「知る・学ぶ」

生物多様性の保全の重要性について知る・学ぶ

【取組み案】

- ふくおか生きもの調査隊
- 生物多様性イラストコンクール
- 大事にしたい原風景写真コンテスト
- 地産地消キャンペーン
- 生物多様性ふくおかセンターの一新 等

基本的方向2 「守る・増やす」

質と量の両面から福岡市の生物多様性を守る・増やす

【取組み案】

- 守るべき種や地域の選定
- 生物多様性保全補助金制度設立
- 自然共生サイト登録申請時の支援(相談・情報提供、補助制度設立) 等

基本的方向3 「活かす・つなぐ」

生物多様性の課題解決に向けて自然や多様な主体を活かす・つなぐ

【取組み案】

- 企業とNPOのマッチングイベント
- 「ふくおかレンジャー」の養成
- 地産地消キャンペーン(再掲)
- 「生物多様性×観光」のスクーリーリズム構築 等

横断的手法

- ・ターゲットに応じた効率的・効果的な情報発信・普及啓発
- ・民間企業やNPO等との連携強化

6 スケジューリング

	2025(令和7)年度											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
環境審議会							● 総会					
環境審議会 環境保全・創造 部会				● 第1回 (改定の方向性等)		● 第2回(予定) (骨子案①、将来像)		● 第3回(予定) (骨子案②)		● 第4回(予定) (素案)		
戦略改定 にむけた作業	基礎調査、これまでの 基本的方向の評価			改定の方向性				骨子案の作成				
				専門家ヒアリング				素案の作成				

	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	2025(令和7)年 8月18日	2025(令和7)年 10月(予定)	2025(令和7)年 12月(予定)	2026(令和8)年 2月(予定)
検討 事項等	○国内外動向、市の状況 ○戦略のふりかえり ○改定の方方向性	○新戦略の骨子案① ○将来像	○新戦略の骨子案②	○新戦略の素案